

# 海外臨床実習報告書 — マヒドン大学ラマチボディ病院 —

2016年4月4日～4月29日

神戸大学医学部医学科6年 井上祥花

## 1. タイでの実習

わたしは、2016年4月4日から4月29日の1ヶ月間、タイのマヒドン大学ラマチボディ病院で臨床実習をさせていただきました。マヒドン大学は附属病院を複数持っていて、それぞれに医学部があります。マヒドン大学は国立大学ですが、このラマチボディ病院には、国の支援によって運営されている部分と、**private area** と呼ばれる国の支援によらない部分があります。わたしはほとんどの時間を国立部分で過ごしましたが、少し覗かせていただいた **private area** は、最新の機器を使用した高度医療を行っており、病室や手術室はとてもきれいで広がっていました。

## 2. 産婦人科

4月最初の2週間、わたしは産婦人科にお世話になりました。タイの学生と接する機会がほとんどなかったため、スタッフの方に助けをもらいながら実習をさせていただきました。産婦人科では、午前は外来、午後は分娩室にすることがほとんどでした。

タイでは、6年生は自分がしたい手技や診察を、自分からやりたいと言えば何でもできるそうです。私は、婦人科外来にて、婦人科診察と膣エコーに挑戦させていただきました。海外からやってきた学生に診察されることを嫌がる人も患者さんもいるのではないかと心配していましたが、みなさん快く受け入れてくださいました。タイでは外来患者の診察に学生が積極的に参加していて、学生に診察されることに慣れているのかもしれない。

サラセミアに特化した外来の見学もさせていただきました。サラセミアは、日本ではまれな疾患ですが、タイでは患者数が多いそうです。産科のサラセミア外来では、サラセミアを有する女性が、自身の持つサラセミアのタイプや、パートナーのサラセミアの有無を調べてもらい、子供への影響があるのか説明を受けていました。日本の医学生生の教科書ではあまり詳しいことは書かれていなかったため、タイの学生がサラセミアの診断やタイプニングの見方をよく知っていて、とても驚きました。国や地域によって疾患の頻度が違うこと、問診でその人の人種や出身地域を聞いておくことが重要だと再認識しました。

午後からは分娩室のスタッフに毎日のようにお世話になりました。留学生でも希望すれば分娩の介助をさせてもらえると聞き楽しみにしていたのですが、分娩に最初から立ち会える機会がなく、介助を経験することはできませんでした。それでも、分娩室の医師や看護師は皆とてもフレンドリーで、とても楽しく過ごすことができました。

### 3. 総合内科

後半 2 週間は、総合内科で実習を行いました。基本的には病棟の一つのグループに入っ  
ての実習でした。総合内科はとても忙しい科で、なかなか先生方に相手してもらえなかつ  
たのですが、ここではタイの学生が数人実習しており、実習の合間にタイでの医学生の生  
活について様々な話を聞くことができました。

また、時々、午前中に外来を見学させていただく機会がありました。例えば、この病院  
には HIV 外来があります。タイでは日本より HIV 患者が多く、特に田舎では病院へきちん  
と通わないこと、感染予防が普及していないことなどから患者は増加傾向にあるとおっし  
ゃっていました。1 日のあいだにこんなにたくさんの HIV 患者さんを見たのは初めてで、  
様々な HIV の合併症を目の当たりにしました。ウイルス・細菌・真菌の感染や白血病、そ  
れぞれの病状や治療過程を見せていただきました。特に印象的だったのは、タイでは肺に  
病変のない結核症例がよく見られるという話です。腸結核をはじめ、結核はたとえ肺に何  
もなくても全身のいかなる臓器にも感染病変を作り得ます。日本では肺病変が問題になる  
ことが多いため、盲点だと感じました。

老年内科外来の見学の際には、とても素敵な先生との出会いがありました。このときお  
世話になった先生は、身体診察を非常に丁寧に行っていたらっしゃいました。先生は、必ず  
患者さんの顔から足の先まで、見て聞いて触って動かして確認されます。老年内科では、  
ほとんどの患者さんが生活習慣病を初めとして様々な病歴を持っているため、そのコント  
ロールについても話をよく聞いて、診察と検査結果で丁寧にフォローされていました。話  
を注意深く聴くこと、診察を隅々に至るまで丁寧に行うことの大切さを学びました。

### 4. タイでの生活

わたしたち留学生は、病院の敷地内にある寮に滞在しました。この寮は、4 年生以降の医  
学部生や若いレジデントの先生も使用しているそうです。基本的には 4 人 1 部屋ですが、  
わたしは一緒に行った神大生と 2 人で 1 部屋でした。寮の管理人さんはタイ語しか通じま  
せんでしたが、いつも近くにいた学生が通訳して助けてくれました。食事は、寮の近く  
にある食堂を利用していました。値段は一食 30 バーツ前後と安く、いつも本当にたくさんの  
種類が準備されていて、一日三食とても美味しくいただきました。

4 月の二週目には、ソンクラーンというタイの旧正月がありました。水かけ祭りと呼ばれ  
ていて、仏像を清めるために仏像に水をかけたり、年長者の手に水をかけて敬意を表す伝  
統行事です。この時期になると、病院内でもソンクラーンの歌が流れ、様々な行事が開か  
れます。産婦人科では、年長の先生方に対して水をかける行事があり、わたしも水をかけ  
させてもらいました。また、病院のスタッフと花柄の服を着て集まり、音楽隊の方と一緒に  
病棟を練り歩いて、患者さんに仏像への水かけをしてもらいます。一方、街中では若者  
を中心に水鉄砲を抱えてびしょびしょになるまで水をかけ合って楽しんでいて、かなり派  
手な行事になっていると感じました。ソンクラーンの伝統的な面、現代的な面、どちらも  
体験することができてよかったです。

タイにいる一ヶ月、タイの学生とご飯を食べに行ったり、週末には水上マーケットやアユタヤに連れて行ってもらったり、とても楽しい思い出を作ることができました。タイの人たちは本当に親切で、温かいです。そんなタイ人の人柄が、わたしは大好きです。

他にも、ここには書けなかった思い出がたくさんあります。最後に、タイで出会った素敵な笑顔と、思い出の写真を載せたいと思います。



分娩室の先生方



総合内科の先生方



食堂



食堂のご飯



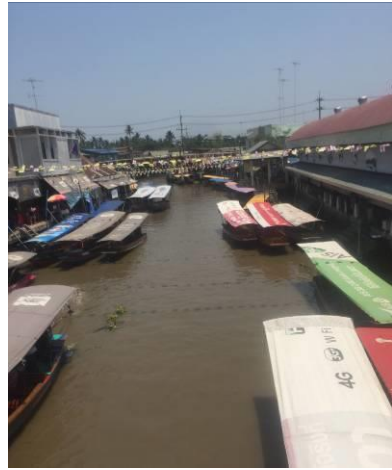
病院に現れた祭りの音楽隊



ICU で水かけの儀式



街中のソンクラーン



水上マーケット



タイの学生と



アユタヤ



最終日